

= 受賞 =

技術部、岡田室長が2013年度農業農村工学会北海道支部賞を受賞

(技術部)

このたび、技術部・岡田包儀室長が、公益社団法人農業農村工学会北海道支部より、2013年度農業農村工学会北海道支部賞を受賞しました。

当学会は昭和4年に農業土木学会として創立され、昭和27年8月には農業土木学会北海道支部が創立されました。平成19年に農業農村工学会に改称し、平成24年4月には社団法人から公益社団法人に移行しました。

農業土木学は、灌漑・排水等の土地改良を行うための技術学として明治の学術を含む近代化の過程で成立しました。今日、農業農村工学の役割は、地球環境と自然環境を保全しながら生産性の高い食料生産の基盤と快適な農村空間を整備・維持することにあります。その具体的な課題は多様です。また、これに立ち向かう研究手法・技術手法も工学的手法を主としながらも多様になっています。しかし、現場の具体的な状況に応じて、調査や実験による確かな事実に基づいて問題解決の方策を創造的に生み出す現場主義は、研究・技術分野の一貫した伝統になっています。

当学会は、大学や研究機関の研究者を核としながら、多数の技術者が参加し、官民学が連携して社会が求める課題に取り組み、技術と学術を高めてきたことが特徴です。

今回の受賞対象となった研究業績「表面劣化コンクリートの強度推定手法の検討」は、本学の井上真澄准教授と共に共同研究企業等も受賞されています。

この度の受賞理由については、次の内容となっています。

「現在、農業用排水路の維持管理には、改修(新設)という手段から補修という手段に推移している。そのため鉄筋コンクリートの機能診断技術の向上が望まれている。

著者らは、近年、この点に注目し、従来の非破壊強度試験法であるリバウンドハンマー法からより簡易である機械インピーダンスハンマー法を提案した。

従来から用いられているリバウンドハンマー法はコンクリートの平滑な表面を対象としているため、コンクリート表面の研磨処理等が必要となり、劣化したコンクリート水路等では、その適応が難しかった。しかし、この機械インピーダンスハンマー法による試験方法は、リバウンドハンマー法と比較し、劣化したコンクリート表面にも対応が可能であり、測定回数が少なくても推定結果が安定していることを明らかにした。

本研究は、今後の農業水利施設におけるコンクリート構造物診断への寄与が期待され、極めて有用な手法を提案した研究であり、これを評価する。」との、評価内容が添えられています。



受賞式の様子

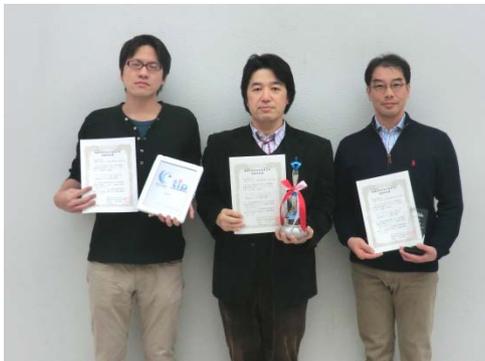
情報システム工学科、榊井文人准教授他2名が 情報処理学会北海道支部技術研究賞を受賞

(情報システム工学科)

このたび、情報システム工学科・榊井文人准教授、大学院1年・上野裕暉氏、共通講座・柳等准教授が10月5日(土)に室蘭にて開催された情報処理北海道シンポジウム2013において、技術研究賞を受賞しました。

情報処理北海道シンポジウムは、情報処理学会の一学会として毎年開催されており、

道内を中心に多くの研究成果が発表されています。今回、榊井准教授らの研究「カーリングインフォマティクスに向けて -タブレット端末を利用した戦術支援システムの開発と運用-」は、同シンポジウムにおいて実用性の高い優れた技術研究であると評価されました。



受賞者(左から上野氏、榊井准教授、柳准教授)



技術研究賞

共通講座、柳等准教授が 日本カーリング協会より会長賞を受賞

(共通講座)

共通講座、柳等准教授が、ユニバーシアード冬季大会において銅メダルを獲得した日本代表チームに帯同し、チームの支援に

尽力した功績を認められ、日本カーリング協会より会長賞を受賞されました。



会長賞を受賞した柳准教授